

医学部医学科のカリキュラム・ポリシー

- 優れた問題解決能力を有した臨床医および医学研究者の育成をはかるために、統合型カリキュラムによる段階的、一貫教育を行います。
- 鹿児島の医療圏の特徴を生かし、地域医療を教育の様々な段階で取り入れた教育プログラムで学習します。
- 講義、実習に加え、入学時より少人数での統合型学習、自己主導型学習により、学生は課題の発見、情報の収集、知識の応用と科学的な思考による問題解決を学びます。
- 学生は患者とのふれあい、シミュレーションを用いた臨床技能の実習、大学病院や離島を含む様々な医療現場での体験、医療者の一員として行動する臨床実習を通して、実践の応用力と医師に求められている人間性や責任感を修得します。
- 臨床医、研究者を問わず必要である論理的な思考に基づく問題解決能力、課題探究心を育むべく研究体験も行います。
- 各段階で学習成果を評価して学習を支援し、実技試験を含む総合的評価を行います。

医学部医学科のディプロマ・ポリシー

鹿児島大学医学部医学科は、医学部の学位授与方針に鑑み、所定の期間在学し、以下の教育到達目標に示された能力を身につけ、卒業に必要な単位を修得して最終試験に合格した者に学士（医学）の学位を授与します。

教育到達目標

(1) 知識

医学、医療、それに関連する自然科学、人文・社会科学の知識を修得して、実践に応用することができる。(以下の能力を示すことによって、この能力を修得しているとする)

- 知識を実践に応用することができる
- 学問体系、専門領域を超えて、幅広い知識を医学、医療に活用することができる
- 必要とする最新の情報を収集し、適切に選択して利用することができる

(2) 診療の実践

基本的臨床能力を有し、患者中心のチーム医療を熱意と責任をもって安全に実践できる。

- 常に利他的な態度を示し、心理社会背景を含む患者の抱える問題を包括的に理解して支援し、患者を尊重した医療の推進ができる
- 基本的診療手技とコミュニケーション技能を身につけ、患者ならびにその家族と良好な対人関係を築いて診療を行うことができる
 - 患者から情報収集を行い、データを解釈して頻度の高い疾患の診断を行い、診療方針を計画することができる
 - 基本的検査・治療手技を実施することができる
 - 診療録の記載と症例提示を実施し、医療情報を適切に取り扱うことができる
 - インフォームドコンセントに基づく患者自らによる意思決定の支援と患者教育を行うことができる
- 医療チームのメンバーと互いを尊重したコミュニケーションを図り、チームの機能を高めるためにリーダー及びメンバーとしての自分の役割を果たして、安全な医療を実践できる
- 医療の実践に必要な知識や技能を修得することが医師としての責務であることを理解し、実行できる

(3) 地域社会

高い倫理観と社会性に基づいて、地域及び国際社会における自分の役割を認識することができる。

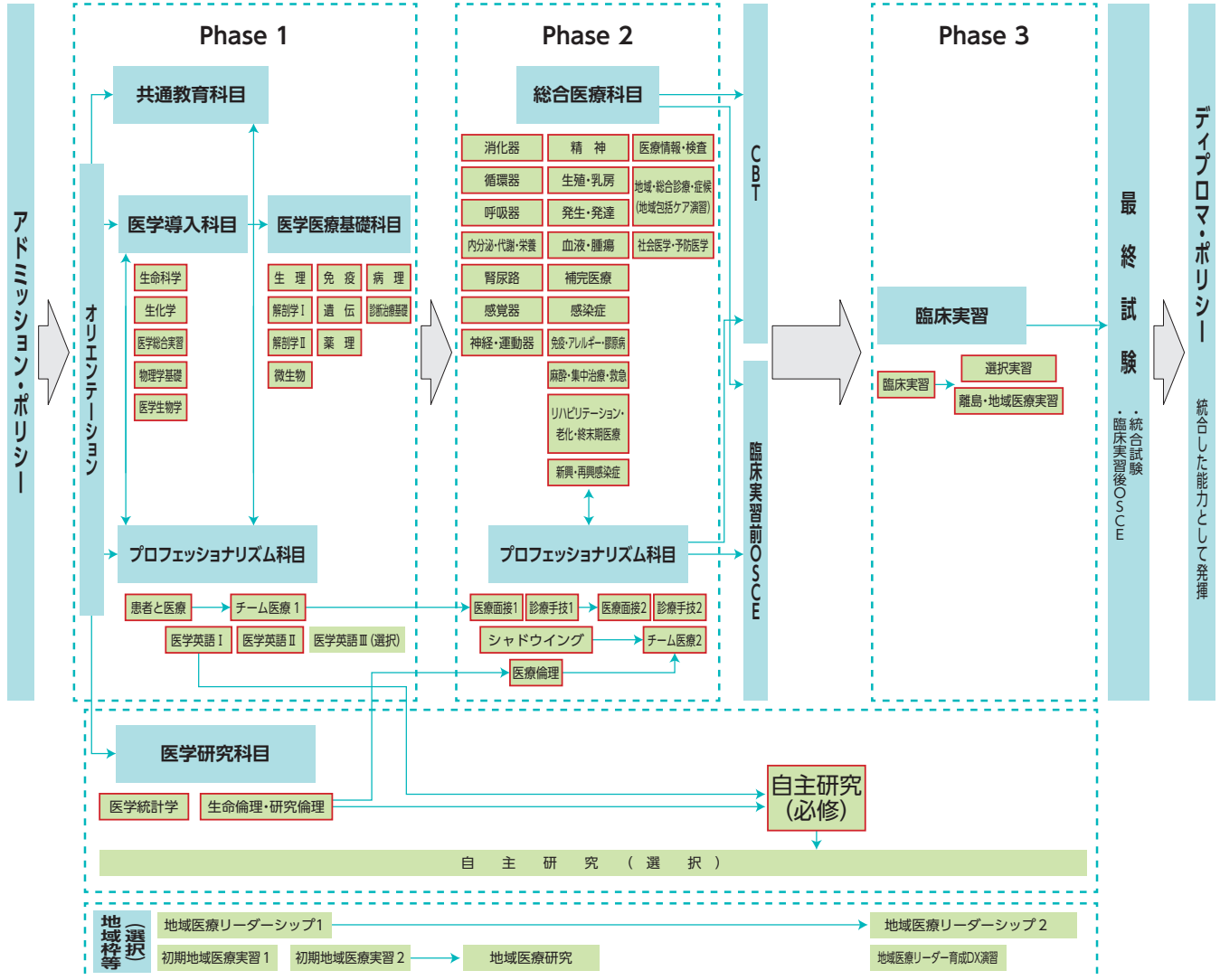
- 地域医療に参加し、基本的な初期診療を実施できる
- 離島・へき地を含む地域医療、先端医療、保健・福祉制度のそれぞれの機能と連携を理解し、医師の果たす役割を自覚し、行動できる
- 医療資源の適切な分配をふまえた倫理的な最善の医療の選択ができる
- 個人、家族、地域、文化圏、国際社会における疾患と医療の多様性を理解し、最新の情報に基づく適切な対応ができる

(4) 研究発展

基礎・臨床・社会医学における研究を体験し、研究の重要性と必要性を認識する。

- 課題を発見して、論理的、批判的に考え、探求し、問題解決する自己主導型学習を行うことができる
- 研究の計画と実施、結果の解析とまとめ、発表、倫理的対応を理解する

カリキュラム・マップ



看護学専攻カリキュラム・ポリシー

- 1) 豊かな人間性と社会性、医療人に必要な倫理観や国際的視野を養い、自主性と創造性に富んだ人材を育成するために、共通教育科目と専門科目を効果的に配置します。
- 2) 医療に対する十分な知識と秀れた技術を修得させるため、基礎から応用・発展的な科目を配置します。
- 3) 医療の諸課題に柔軟に対応できる思考力と的確な判断力を養うための科目を配置します。
- 4) チーム医療を実践するうえで必要な協調性やコミュニケーション能力等を涵養する科目を設けます。

看護学専攻ディプロマ・ポリシー

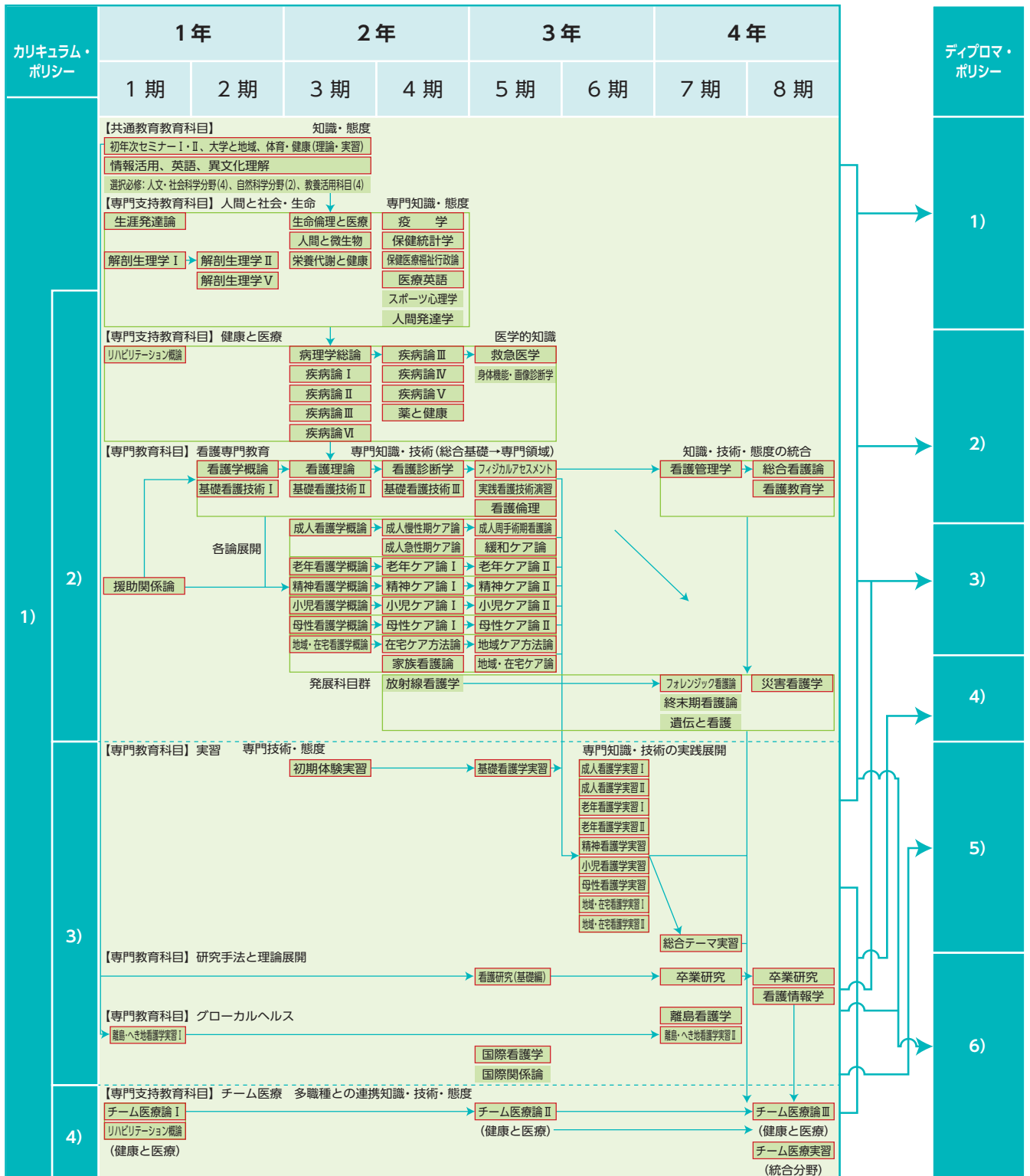
- 1) 生活者としての人間への深い理解と高い倫理観に基づいて援助関係を築き、対象の主体性を尊重した看護実践ができる。
- 2) あらゆる健康レベルにある対象の看護問題を抽出し、解決に向けたケアを計画・実施・評価するために必要な知識と個々に応じた技術と態度を有し、実践できる。
- 3) 看護を探究し創造する自律した専門職者に必要な科学的・批判的思考力を備えている。
- 4) 継続的に全人的医療を提供できるように、保健福祉医療において、チーム医療を実践できる。
- 5) 看護の問題をグローバルな視野でとらえ、幅広く人々の健康に貢献できる。
- 6) 離島・へき地の地域特性を活かした看護を実践できる。

対応する
学科DP

- ①④
- ②③
- ③④
- ①②④
- ①②
- ①②

カリキュラム・マップ

□ 必修科目 ■ 選択科目



理学療法学専攻カリキュラム・ポリシー

- 1) 豊かな人間性と社会性、医療人に必要な倫理観や国際的視野を養い、自主性と創造性に富んだ人材を育成するために、共通教育科目と専門科目を効果的に配置します。
- 2) 医療に対する十分な知識と秀れた技術を修得させるため、基礎から応用・発展的な科目を配置します。
- 3) 医療の諸課題に柔軟に対応できる思考力と的確な判断力を養うための科目を配置します。
- 4) チーム医療を実践するうえで必要な協調性やコミュニケーション能力等を涵養する科目を設けます。

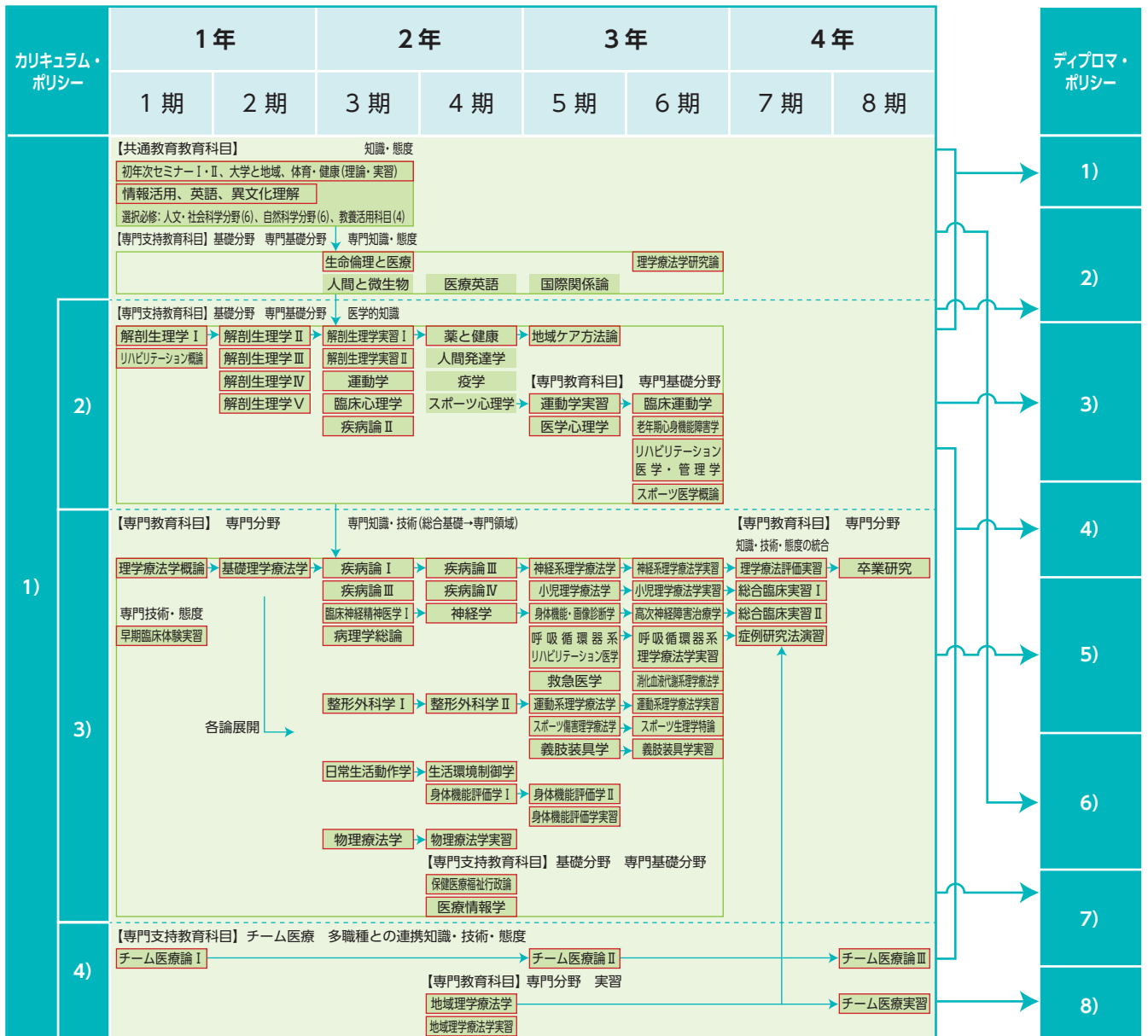
理学療法学専攻ディプロマ・ポリシー

- 1) 人体の構造と運動機能の関連付けができる。
- 2) 人間の機能及び代謝について理解し、疾患の発生機序や病態と障害とを関連付けができる。
- 3) 臨床医学の知識を個々の障害者の障害とその回復の観点から整理・統合し、機能障害の評価、再建、予防を實踐できる。
- 4) 物理的刺激による生体反応を通じて、治療との関連付けができ、実践できる技術を身につけている。
- 5) 臨床に携わる一員として、チームとしての役割を理解し、チーム医療に結びつけられる理論と技術を身につけている。
- 6) 理学療法領域における研究を積極的に推進し、医療のみでなく保健・福祉全般に貢献できる基礎的能力を身につけている。
- 7) 国際的な視野を持ち、理学療法学に関する国際的交流ができる基礎的能力を身につけている。
- 8) 学生生活全般において後輩学生を指導できる能力を身につけている。

対応する学科DP
③
③
②③
③
②④
①②④
①
①

カリキュラム・マップ

□ 必修科目 ■ 選択科目



作業療法学専攻カリキュラム・ポリシー

- 1) 豊かな人間性と社会性、医療人に必要な倫理観や国際的視野を養い、自主性と創造性に富んだ人材を育成するために、共通教育科目と専門科目を効果的に配置します。
- 2) 医療に対する十分な知識と秀れた技術を修得させるため、基礎から応用・発展的な科目を配置します。
- 3) 医療の諸課題に柔軟に対応できる思考力と的確な判断力を養うための科目を配置します。
- 4) チーム医療を実践するうえで必要な協調性やコミュニケーション能力等を涵養する科目を設けます。

作業療法学専攻ディプロマ・ポリシー

- 1) 幅広い教養を学び、人間性豊かな医療専門職に必要な基本的能力を有している。
- 2) 人体の構造と機能、心身の発達及びリハビリテーションの概念を理解し、医学的基礎知識を習得している。
- 3) 疾患の発生機序や障害の構造を理解し、臨床医学に必要な専門的な知識と技術を習得している。
- 4) 身体障害・精神障害・発達障害・老年期障害に対する作業療法に関して、個々の障害の理解とその回復の観点から評価及び治療を展開できる知識と技術を習得している。
- 5) 臨床実習を通して、作業療法士に必要な知識と技術及び態度を習得している。
- 6) 科学的思考、創造的思考及び学際的思考で作業療法を展開できる能力を有している。
- 7) 医療専門職の一員として、他の職種と連携・共働し、医療・保健・福祉のニーズに対応できる知識と技術を習得している。

対応する
学科DP

- ①④
- ②③④
- ②③④
- ②③④
- ②③④
- ①③
- ②③④

カリキュラム・マップ

□ 必修科目 ■ 選択科目

カリキュラム・ポリシー	1年		2年		3年		4年		ディプロマ・ポリシー
	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期	
2)	【共通教育教育科目】 初年次セミナーⅠ・Ⅱ、大学と地域、体育・健康(理論・実習) 情報活用、英語、異文化理解 選択必修: 人文・社会科学分野(6)、自然科学分野(6)、教養活用科目(4) 【基礎科目】 人間と微生物 ■ 医療英語 ■ 国際関係論								1)
	【人体の構造など】 解剖生理学Ⅰ ■ 解剖生理学Ⅱ ■ 解剖生理学Ⅲ ■ 解剖生理学Ⅳ ■ 解剖生理学Ⅴ 解剖生理学Ⅱ ■ 解剖生理学Ⅲ ■ 解剖生理学Ⅳ ■ 解剖生理学Ⅴ 人間発達学 ■ 運動学 ■ スポーツ生理学特論 ■ スポーツ心理学 ■ 運動学								
3)	【疾病と障害など】 臨床心理学 ■ 薬と健康 ■ 地域ケア方法論 ■ 病理学総論 ■ 疾病論Ⅳ ■ 救急医学 ■ 臨床神経精神医学Ⅰ ■ 臨床神経精神医学Ⅱ ■ 疾病論Ⅰ ■ 疾病論Ⅱ ■ 神経学 ■ 疾病論Ⅲ ■ 整形外科学Ⅱ ■ 整形外科学Ⅰ								2)
	【保健医療福祉とリハビリテーションなど】 リハビリテーション概論 ■ 生命倫理と医療 ■ 疫学 ■ 保健医療福祉行政論								
1)	【基礎作業療法学】 基礎作業学 ■ 基礎作業学実習Ⅰ ■ 基礎作業学実習Ⅱ								3)
	【作業療法管理学】 作業療法学概論 ■ 作業療法管理・研究論 ■ 作業療法バイシニング								
3)	【作業療法評価学】 身体障害評価学 ■ 精神障害評価学 ■ 身体障害評価学実習 ■ 精神障害評価学実習 ■ 発達障害評価学 ■ 発達障害評価学実習								4)
	【作業療法治療学】 カウンセリング論 ■ 臨床動作分析学 ■ リハビリテーション理学 ■ 精神障害作業療法学 ■ 身体障害作業療法学実習 ■ 身体障害作業療法学 ■ 精神障害作業療法学実習 ■ 高次神経障害治療学 ■ 発達障害作業療法学実習 ■ 補装具学 ■ 老年期障害作業療法学 ■ 補装具学実習 ■ 身体障害生活技術論 ■ 老年期心身機能障害学 ■ 身体障害生活技術論実習 ■ 身体機能・画像診断学 ■ 医学心理学 ■ 視覚聴覚リハビリテーション								
4)	【地域作業療法学】 地域生活支援学 ■ 精神障害者生活支援論								5)
	【臨床実習】 早期臨床体験実習 ■ 臨床地域実習 ■ 臨床評価実習 ■ 臨床基礎実習 ■ 臨床実習Ⅰ ■ 臨床実習Ⅱ								
4)	【チーム医療】 チーム医療論Ⅰ ■ チーム医療論Ⅱ ■ チーム医療論Ⅲ ■ チーム医療実習								6)
	チーム医療論Ⅰ ■ チーム医療論Ⅱ ■ チーム医療論Ⅲ ■ チーム医療実習								